福島
經濟タイムス

毎月一回發行
本紙郵税共一部廿錢
廣告料十三字詰一行一圓
場所指定三割增

編輯兼發行人兼印刷　佐久間盛一
福島縣信夫郡渡利村舟場六
發行所　福島經濟タイムス社

福島縣の蠶糸業

蠶糸課長　太田兵太郎

本縣は由來本邦蠶糸縣の先覺地としてその榮譽を擔ひ來つたのである、現在に於ても依然有數の蠶糸縣として重きを爲しつゝあるは洵に欣懷に堪へない、近時農村振興の急をする秋に當り我が蠶糸業は汎く農村に普及して養家經濟の必須資源たるの實狀に陋むる時は斯業の使命の重、且大なるを痛感するのである。

然るに近年人造絹糸の著しき發達を遂くるあり一面人造絹糸は對外爲替關係や世界的物價低落の大勢に支配されて兎角糸況不振の狀態にある殊に本年養蠶以來の繭價暴落は其の極に達し夏秋養蠶の如き一貫目三圓と云ふ桑葉代をも償ひ得ぬ値段を現出されたる地方を見るに至り或る養蠶組合の如きは昨年に比し一戸平均二百三十餘圓の收入減を來したと云ふことである。

國運の前途を支配し地方農村の死活を動すべき斯業の現狀右の如きは甚だ遺憾とする所にしてこの難局を打開する爲めには官民共に全力を擧げて革新を圖らねばならぬ。

尙本年の繭價暴落に付き特異の現糸と認めたのは糸價に比し甚しき繭價の安値を現出したことである其の原因は主として金融の不圓滑に在つたのであるが結局は我蠶糸業組織の基礎確立せざるに依ると見ねばならない、今本縣が此以來執つた應急策に就き述べ見やう。

一日本銀行指定倉庫の臨時增設に依り購繭資金の圓滑を圖つた之に依つて本縣年產繭額三百四十萬貫の凡半數に達する收容能力を有せしむるに至つたこと。

二產業組合組織の繭市場竝製絲場に對して縣の保証に依り中央金庫から低利資金の融通を受け繭取引上需給兩者間の便益を圖つたこと。

三繭共同出荷に奬勵金を交付し、又一般に共同販賣を奬勵し現金取引を促進して繭賣買の公正圓滑に努めたこと

四乾蠶共同保育及共同委託製糸に依つて繭價慘落の爲養蠶者の餘儀なき投賣を防止する對策を諸じ彈力ある販賣處理の途を購したること。

五政府預金部より養蠶應急資產二百四十萬圓の融通を受け縣下養蠶者の經營資金に充てしめたこと。

六對策は何れも樣宜に適し相當の効果あらしめたのは實に不幸中と幸と謂ふべきである然れども此は一時的應急の策に出てたもの多きも本年の組織經營に付ては一時的でなく更に恒久的にして且根本的改善の方途を講じて行かねばならぬと思ふ而して之が方途は種々あるべきも就中經營上に就ては今後努めて生產費の節約と繭取引の改善とに主力を注かねばならない。

本縣の桑園反數は長野縣に置き全國第二位に位するが收獲量に於ては甚だ劣り桑園一反歩當收繭量全國平均十五貫九百七十二匁なるに比し本縣は九貫七百二十八匁に過ぎない大の關係があるから桑園の改善を圖るのは最も先決の問題である、其の他適當なる共同制度の改善が恒久的に行はれつゝあるは斯業の爲洵に慶賀すべきである。

本縣蠶糸業は古來全國的先進地として幾多改善啓發の範を示し來つたのである、今や世運の進展に伴ひ斯業の經營上將來又技術上に著しき變革を來さむとし改善更新を要すべきもの甚多い此際當業者各位斯業の爲、一層の賢處を煩はしたい次第である。

小名濱港に就て

土木課長　中川幸太郎

本縣小名濱港は德川幕政時代には小名濱代官所及場長谷平諸藩の領域は、勿論遠く棚倉藩の領域に至る、藩粗末の海運輸送の門戸にして明治二十七、八年頃迄は磐城炭其他諸物資の輸出入港として船舶常に輻輳し眞に帆檣林立の偉觀を極め東北の要津として名を爲せしが國有鐵道常磐線開通後は貨物は全くかれに奪はれ漸次衰胚し昔日の面影を沒し單に漁港として、地方漁民にのみ利用せらるゝに過ざる有樣にあつた、然るに大正七年以降七ケ年に亘り農林省より四十七萬圓の補助を受け之に縣費五十三萬八千餘圓を投じ修築の工を起し大正十四年三月竣成して以來漸次入港船舶が多くなつて活氣を呈する樣になつた而して小名濱港は東京港鹽釜港との中間に位し東京より北海道に到る航路中最も優越せる天惠的港で夙に重要港灣たる素質を具備し後方、地域は所謂常磐炭田の無盡藏なる數多の重要鑛區を包有し背後は廣大なる山林地帶に連接し沃野連亘せる石城平野を擁し加之國有鐵道常磐線は本港より三哩の近距離を從走し磐越線は平町より分岐して郡山市に於て東北本線と交叉し更に會津平野を從貫して新潟市に達して居りから既定計畫なる國有平小鐵道が完成することになれば本港は磐越西線に依りて新潟港と直通し本州東部方面に於ける日本海並に太平洋浴岸諸港の連繫の捷路を得る樣になるのである又道路は國通第六號線外各府縣道從横脈路相通し加ふるに多數の既設軌道各樞要地區間に布設せられ交通の利便最も整備して居るから小名濱の商港設備が出來で海陸連絡の施設成るに於ては叙上の交通整關を利用して大体七十萬噸の物資が小名濱港に轉屬し海運に依り各仕向地に輸送さるることが疑ないと思はれるから本港の將來は前途益々有望ていや其修築の緒に着かんとするは誠に慶賀に堪へさる次第であります。

祝通常縣會號

福島縣知事　伊藤喜八郎
內務部長　半井清
警察部長　別宮秀夫
學務部長　大久保住吉
地方課長　白戸半次郎
農務課長　佐瀨剛
蠶糸課長　太田兵太郎
土木課長　中川幸太郎
庶務課長　尾戸次作
商工課長　里見富次
學務課長　山內逸造
秘書課長兼統計課長　山川源三
民政黨福島縣支部長　吉田吉郎右衞門
衆議院議員　大島要三
民政黨福島縣支部幹事長　釘木衞雄
政友會福島縣支部長衆議院議員　八田宗吉
政友會福島縣支部幹事長　佐藤庄太郎

花の開くや
實に遲かりし

耶麻　田部　善志氏

苦節三十年――その人格その手腕その力量において申分のない君にとつては正に幸運の來る何ぞ遲きの感。郡民政派の元老、功勞者として同志が總て認めてゐながら常に斥けられて來た君ではあるが花は開いたのだ。手腕は既に人の知るところ、これからとしては年を重ね過ぎてはゐるが老來意氣漸く盛んなることにおいて期待し得るものがある。温厚――といふ文字が君のために出來てゐるかと思はれるやうな男お祖父さん！と呼びかけたいほどの懷かしみを人々に持たせる。が一面強いところを持つ君は縣會においてもおそらく人後に落ちることはないだらう。

親分はだで
縣會の名物男

耶麻　物江　浩氏

いつも危いといはれてゐながらチャンと當選する。人間としてある程の良さを持つてゐるからだ仕事は過ぎるほどする。そして親分はだの男、縣會の名物男、正直過ぎる直情直行の男だ。氣に食はねばグイ〳〵怒鳴りつける。それがわざはひして敵も多く持つてゐるが力強い味方もある。縣會では有名な駄々ッ子であり茶目公である頭もよし、しやべつても上手、身體は堂々、政治家らしいタイプだから人に頼もしい感を與へる。人は君の直情經行を難ずるけれどもそれが君の短所であり長所なのだ。今回も物江危しの聲が高かつたがそれだけに君の得意や思ふべく人氣者として縣會座を賑はす日のくるのが待たれてゐるわけだ

普選と聞き
飛出したこの人

相馬　猪狩　雄祐氏

今から十年前相馬郡上席郡書記として鳴らしたものだ、郡長の候補者にまであげられたが原内閣の時代依頼免官となつた、謹直そのものゝやうな官吏型の人、政治家としては古い嫌ひもないではなからうがほとんど敵のない男だ、これまでも選擧ことに思ひだしたやうに引合にだされいつもてゐたのだが普選の二字を知つてかれは飛ひだし今回の榮冠を勝ち得たのだ、地方政治家としては前途なほ春秋に富んでゐる君に民政黨入黨の所感をたゝくと一に濱口總裁に私淑、二に新しく生れた政黨なるが故にとある。まづ濱通りでは出色の縣議であらう

政友派の闘士

石城　鈴木辰三郎氏

前回の縣議戰に敗れたことは實に君に取つて忘れ難い痛恨雪辱を策する四年間、遂に今回の榮冠を獲た、縣議として石城政友一方の闘士として今後の活躍は注目すべく、地方問題の解決にも君の力に待たねばならぬものは相當に多い、自重を望んでやまぬ

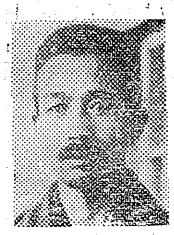
自治行政の
大家と自稱

西白河　鈴木啓夫氏

元郡會議員、郡參事會員として又產馬組合農會等の役員としてよりもこの度の選擧ポスターに「自治行政の大家」と銘打つた如く（冷笑したものもあつたが）安積郡永盛村が紊亂村として手の入やうが無かつた時小野田村助役より拔かれて村長となり一年ならずして優良村となし次いで西白河郡大沼白坂の兩村も同樣な境遇に陷つた際快刀亂麻を斷つ如く整理し選擧前まで小野田村長として成績を擧げて居るところを見ても故無いいひ草ではない殊に前回少數の差で落選の悲運に遇つた事なども同情を引きこの度は幹部側より壓迫されたなどゝもうはされたが「孤獨院同情投票收らん居士」といはれた如く大いに頑張つて當選した事は當然の當然で相當の實績は期待される

黨臭がなく
人格がひかる

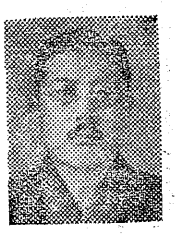
田村　助川啓四郎氏



夫婦喧嘩だらうが親子喧嘩だらうが飛込んで和解させる力を持つてゐる助川君は常にも、べいにゴム靴といつた格好で押通してゐる、片會根村長で縣參事會員を勤めてゐたかれは磐洲翁の地盤へ丸裸で乘込み僅一期の縣會で動かさぬ地盤を造つてしまつた、それもつまりはかれが人格の光りと見られやう君は早大の出身いやに黨臭がなく反對派の人々からでさへ惡く思はれない男だ、いまかれは居村に農民學校をたて無料教師として農村青年の訓育にも努め旁地方問題と政黨の働きを甘くコントロールして居る

仁俠を見せた
熱血の男子

河沼　石田　俊夫氏



君は白虎隊の勇士石田利助の從兄であるだけあつて熱血の士である、その昔日清、日露の兩役には滿洲の荒野で奮戰もした、大正八年縣議に當選十三年の改選には野澤町の齋藤兵鬼千を縣會に送るため自ら身を引き仁俠のほどを見せた、三十一歳で既に郡會議員になり十八ヶ年、今では八田代議士と切つてもきれぬ關係にある

人をひきつける
不思議な男

双葉　山田　六郎氏

縣會議員としては試驗濟みの男だ、何故なら前縣會當時も、野黨の一闘將としてうがつた、質問もすれば攻擊もした、教育、經濟両方面は特に君が得意とするところである、君は不思議な魅力を持つてゐるんだといはれてゐる南双におけるその地盤は何人も侵すことができない、それ程堅固なもので今度の選擧にはそれ程大騒ぎをせずともどこからともなく寄付が集まつたといふ、思想の比較的新しいといふこと素人政治家であるといふことで青年の期待がつながれてゐる大正七、八年當時浪江町で製糸場を經營し元來實業界出身の男ではあるがそれに似合はず驚くべき讀書家と聞いて居る幸ひ君は再び縣會の席を占めたのだ、民政黨は君を遇するに相當割の良い役員を割當るといふことだ

理想を說かず
實行に向ふ

安達　大内　一郎氏

政治は理想ではない實際國民生活に即した者でなければならない、二本松あたりで地方有志と一パイやると大内君は必ずかういふさうだ、かれは局にいり逸堂と號して健筆をふるつてをり現在では故佐藤布南君のあとを承け主筆の職にあり

地盤の力と
自身のはたらき

石川　深谷新之助氏

かたわら地方自治、交通、勸業等の問題に關して献身的努力を拂つてゐる今回の選擧に際しては同地の御大前縣會副議長田倉孝雄君と張り合ひ結局兩君が公認されて鹿を逐うたのだが結果において君は先輩田倉君の得票を奪ひ遂に榮冠を勝ち得たのだ、年齢いまだ三十七歳耶麻の矢部、西白河の大越兩君と共に操孤界出の花形縣議である

中野氏に似た
奇才の持主

安達　菊地　長伍氏

錦城中學出身元郡會議員長現町會議員で更に郡聯合青年團長郡山林組合管理者等の榮職にあり前縣議小針啓太郎氏の後繼者にたづさはつてゐた温厚な人である、今度の出馬も適任者として期待されて居る、河野磐洲以來の民政派絶對の地盤ではあるが君が平常獻身的に膽させてゐたが結局乘りだし戰つた結果は强敵草野良八翁まで屠つて最高点で當選した氏はどこまでも眞面目である、永年地方自治行政にたづさはつて居ただけに豫算に目を通し所の違つた持ち主だ。

どこまでも
眞面目一點張

田村　湊　季松氏

磐洲翁の生地三春町長を勤めてゐた湊さんは郡書記を振り啓太郎氏だしに十數年間地方自治行政の後繼者にたづさはつてゐた温厚な人である、今度の出馬も適任者ではないと辭退して交友を落膽させてゐたが結局乘りだし戰つた結果は强敵草野良八翁まで屠つて最高点で當選した氏はどこまでも眞面目である、永年持つてゝも持たない振りをするところはどうだかわからぬが奇才のあるあたり君は中野寅吉代議士に似てゐるといふことだ、永年針道村長として又安達東部民政派の重鎮として働いて來た君はこれまでも改選ごとに出たがつてあせつてゐたそれが今度こそは實現したのだから隨分うれしいことだらう

由來安達郡は政友派田倉一派の根が相當に張つてゐるところであるにも拘らず君は今回衆望をになつて出た縣會は普選第一の初舞臺だ、舊殼を破つて進めとは君のため郡民が叫ぶ聲であらねばならない

（三面に續く）

資産家の出 無産者の味方
安達 小松茂藤次氏

マルクスの經濟學說をひもといたことのある小松君は新しい頭の持主だ、君は本宮町の資産家に生れ金の苦勞をして來た男ではないがはき／＼として無產者の味方ともなり得る男だ現在では郡山銀行頭取の重職にある外同地方大小銀行會社に關係して居る元來實業界方面にのみ頭をいれて來た人だから政治的手腕は未知數だとあるが然し君は語つてゐる「人間に出來ないことはない、出來ない勤まらないといふことは要するに努力がたらないのだ」ともつて君を信ずるに足る

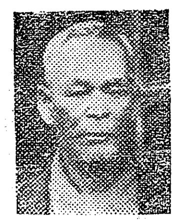
田舍の村長には 惜しい人物
田村 石井康重氏

フロックコートにキットの黒靴をきちりと身につけてゐる君は在郷の村長さんには惜い人だといはれて居た。然しこれは服裝からのみの言葉ではない、勢力家の宗像利吉君を向ふに回して煙草試驗場耕作組合の事で腰の弱かつた郡山專賣局に肉薄して部落民の主張を貫徹せしめ終始亂れぬ結束振りを示したあたり鮮かな手腕の持主だ、今回の勝利もむべなるかなだ。

スター議員
石城 古川傳一氏

縣議中の新人、誠實、純情の持主として郷黨の人氣を集めてゐるところに君の面目を見る、地方の開發を念として郡南方部の交通、土木等の事業を完成した点などにも政治的才能を認めることが出來る、縣下隨一と稱せらるゝ磐中の入學難を緩和すべく多年の懸案郡南中等學校建設の地方的問題の如き君が不斷の努力によつて解決を期待されつゝある、古ぼけた前縣會に到つては、漫書をかき、短歌をひねりスター議員の一人であつた

困つた人には 惠んでやる
相馬 小野貞吉氏



沈默の人小野君は政治的に經けんがあるわけではないが親分はだの男である今から三十年前常磐線開通の頃人夫として中村町に流れ込み今日の立場を築き上たいはば立志傳中の人である、親分はだのひらめきも實はそれが原因してゐるだらう、だから彼は縣會議員に推されない以前も町會議員として中村町には盡して來た「困る人には惠んでやる」彼は常にこれをモツトーとしてゐるといふから理屈を抜きにして無産者の氣持ちをよく知つてゐる男だ

炭鑛界で苦闘
石城 山崎吉平氏

辯舌の人にあらずして實行の人、熱の人、力の人である、一介の農夫から身を起して炭鑛界に苦闘の生活を續け今日の産を成す、このこと既に凡ようの士でないことを雄辯に物語つてゐる、太ッ腹で抱擁力もあり村長の職にあつては村民の信頼を集めて懸案の小學校を統一新築する等、模範的治績を擧げたことは今度の選擧に勝てた一ッの宿善であらう

腕はたしか これからの男
伊達 奥山忠藏氏

學校は慶應義塾の普通部しか出てゐないが達北の資産家奥山忠左衞門氏の御曹子だ、根がおぼつちやんで何にもわからないやうだが現在藤田町消防組頭同在郷軍人分會長の職にあつて、てきぱきやつてのけてゐるから仲々腕は確だ、縣會議員としては初めてであるが地方的にも又黨人としても信望厚くこれからが氏の活躍舞臺である

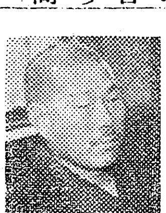
南會津のため 期待をかく
南會 馬場長一郎氏

君は南會の財閥馬場家の現旦那、現在伊南水電の社長として又郡內の製糸業者として覇を唱へてゐる。まことの君は政治家にあらずして實業家である、年齢正に五十。產業、教育あらゆる文化に惠まれざる南會のために君が今後殘すであらう功績こそは正に興味ある問題だらう

才幹ひかる 立志傳中の人
安積 本田通之助氏

二等看護長になつてから醫術に志し大正二年檢定試驗に合格し多田野村に開業しまたゝく間に附近醫師の患者を吸引して押しも押されぬ「先生さん」の稱呼を受けるやうになつた手腕をもつて村長疏水議員と政治方面にも働きだした立志傳中の人であり才幹安積郡に光つてゐる、疏水問題で眞つ二つに割れた安積郡山憲派（當時の）は火と水に分離されるだらうと粟山代議士などひやひやさしてゐたが本田君の立候補承諾するや惑星大野君も手を差し出して「小異はすてる」と言明し選擧事務長となつて筋書を作つたこれは本田君だからこそ？

ウソいへぬ 手堅い人物
伊達 松田甲次郎氏

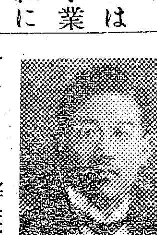


上保原村長を永く勤めて居る松田君は別に學校をやつたといふ經歷は持つてゐないが教育、產業方面には可なり精通してゐる、地方政治家としては既に定評があるもスパルタ式な堅いところがあり普選時代の政治家としては古いところを多分に持合せてゐる方だらう、然しかれは全く眞面目な男である、ありふれた政治家のやうにうそをいへない人物だ、三十年來地方自治のためには力を盡し見るべき幾多の事業をなしてゐる。そこがかれに對し地方人が信頼をおくところであるといふ今年の縣會では例によつて一言居士振りを發揮することだらう

腕があつて 仲々の策謀家
北會津 大竹富吉氏

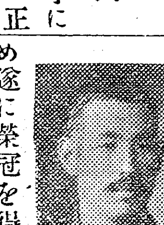
中野寅吉代議士の子分といはれる君はまだ輪廓の大きい政治家ではないが仲々の策謀家で腕のある男だ、大正八年中の如き地方人が非常に難じうを極めた大戶村雨屋地內から點森に至る延長二里餘の道路を開さくして以來村民から非常に尊敬されてゐる現郡農會議員、會津木炭組合議員、村會議員として活躍しつゝある

血も涙もある 苦學力行者
若松 岩崎光衞氏



强敵中野、小林両君を見事に倒して榮冠をかち得た君は正に幸運の人である、年齢漸く三十七。昨春易々と若松市會議員に當選し政治生活に一歩を印たばかりだが、既に市民政部會の副會長として更新クラブ會長として同派の中堅をなしてゐる。政治的手腕については尙未知數だが期待し得るひらめきを見せてゐる。苦學力行してつひに辯護士試驗にパスし今日の地位を築きあげたゞけに血も涙もある、正義を求むる心火の如きも常に温厚この温厚が禍して？偶引つ込思案に墮するかに見ねることすらあり中堅にありながら鬪將たり得ないのもこゝに原因してゐよう。君のために人々が惜しむのもここだ。ある鋭さ——それが足りないのだ、しかしこの君にして時に醉へば蠻聲を張りあげて童謠を怒鳴り怪しげな手振り身振りで踊る雅氣をも持つてゐる

策士として 働ける人物
東白川 宗田利助氏



政民兩派から一名づつ公認で無競爭を豫期して立候補したところが民政派で須藤、三田兩氏の立候補を見更に中立として松田札吉氏が立つたので地元の棚倉町に地盤の無いため一時は當選を疑はれたが南部の白石禎美氏等の後援があつたため遂に榮冠を得たが軍隊生活にも地方的名譽職としても相當の成績を擧げ殊に白電の合併問題の際の如きは反對を裝うて小株主の機先を制して反對の氣勢を擧げ決選投票でマンマと贊成投票をして福電への合併を成立せしめた程の策士であるから策士としては相當の働きは期待されて居る

默々のうちに 實績を擧ぐ
東白川 須藤千代之助氏

居村鮫川村役場に入つたのが明治二十三年書記となり收入役となり助役となり明治三十九年村長に推され今度の選擧で辭任するまで温厚篤實で信望があつたその間赤十字產業組合その他の關係で表彰される事數回におよび又數回候補に擬せられて居たが辭退しこん度同志の推薦で激く出馬し遂に當選の榮を得たものであるが默々のうちに相當の實績は擧げるものと期待されて居る

齢はとつても 元氣なもの
岩瀬 三浦藤八氏

「普選になつたいま時おれが出る幕でもあるまいが」と辭退はしてみたもの乂衆望をい

（四面に續く）

れて立候補し若いものを相手に戰つて今回の榮冠を得たのもそれは君が多年築いた强固地盤があるからだ、君は元郡會議員縣會議員あるひは須賀川町長として永いこと地方自治のためあるひは政友派のため努力して來た、本年六十九といふ年齡からいへば老人組だが元氣はすこぶるわう盛なものだ現に母畑水電の社長として電氣事業界に活躍してをるから普選が生んだこの老議員の動きは又活目して待つべきだ

現代政治家と違ふ肌合

信夫 佐藤利助氏

佐藤君は清水村の有志で通つてゐた、元は村會議員はもちろん郡會議員を勸め相當はばをきかせもしたが村では影のこい方ではなかつた、然し君はチャンスを見るに敏であつた、政友會の闘將であつた元代議士高田唯一郎氏の發起する飯坂電車株式會社（現在福電鐵に合併）が組織されるが專務取締役となつて以來政友會方面に認められ今日の榮冠を齎ち得たのだ、君を知るたれもいふやうに君は人相からいふも中老の坂をこした善良な親父をしのばせるそれだけ君は健實である、術策をらうする現代の政黨者流とははたを異にする

若い者には負けぬ元氣

河沼 小池源四郎氏

八田代議士の子分である君は今回の立候補も當選も實のところ八田氏の力に待つものが多いであらうが然し君の人格とそして有權者の自覺が相待つたことはもちろん言を待たない、君は六十九歳といふからまづ年齡からいへば今次當選者中の古株で政治的手腕は全縣的には餘り認められてはゐなかつたが元は郡會議員をも勸め今の會津農林學校建設には大部盡力したものだ「普選になつた今日おれが出る幕でもあるまいが、まあ若い者に負けず大いにやるよ」と君は元氣で語つてゐる

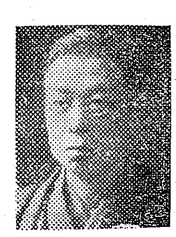
柄に似合はずこまかい男

大沼 千葉爲吉氏

シビレを切らしてゐた君も漸く念願がかなつたわけだ、郡內屈指の大金持ち大きな體くに關羽ひげ、見るからに豪放磊落――といひたいところだが事實は反對でこまかいことで有名な男である、押しだしが利くが直ぐ見透かされてしまふしかし仕事は出來る男だ。氣を大きく持つて事に當れば金の心配はなし、存外伸びるかも知れぬ、御大中野代議士はわがこと以上に喜んだとあるが選擧委員連がいまだ事務所に頑張つてゐるのは君のこまかいところを語る證據、惜しむべしではある、とは同志のたれ彼がいふところ

溫厚篤實なる

福島 湊芳藏氏



湊氏は明治二十六年以來辯護士として福島に居住し市政のために盡力して來た透徹した頭腦、堅實な步調それに政治家としての抱擁力もあり衆もある。福島市制實施以來去ろ十四年まで連續市會議員のイスにあり、又法曹界の重鎭として辯護士會長の要職にある。溫堅篤實の氏である、今回の榮冠を齎ち得たのは氏に取つては當然過ぎる當然である。先づ議長に擬せられても異存の無き好人物である。

坊ちやん育ちとは思はれぬ青年手腕家

信夫 鈴木周次郎氏

信夫郡での素封家の御曹子で專修大學を卒業し年若くして大沼電燈會社の社長又は鈴木實業銀行專務をも勤め今は休業商銀の整理委員といふ大役を承つてゐる。本年三十六歳の青年手腕家である

癖のないのが勝利の原因

双葉 郡 豐太郎氏

普選最初の縣會議員をださうとした双葉の政友會では同地が民政黨地盤であるだけ血迷つた、豫選會のとき白羽の矢は木戶村の齋藤龜作氏あるひは馬塲周時氏に立つたが然しいづれも不調に終り結局どうしても郡君でなければならないといふことになつた、君は同地方の人が知る如く濱通りの肥料商人としてこそ知られては居るが地方政治家としては全く知られてゐなかつた、それだのに君は敢然馬を陣頭に進め民政黨幹事長釘本衛雄氏を向ふに廻して戰ひ遂に勝利を得たのだそれも要するに癖のない男だといふことが原因してゐるといふ

默つてゐる未來ある人物

岩瀨 吉田弘次氏

早稻田大學を卒へ目下須賀川町で肥料問屋を經營し町會議員として二期勤めて居るが君は全く沈默の人でいまだ町會の議席において意見を戰はしたことがない然し君は頭が出來てゐるし年齡も若い、これからの男だから今次の當選は君の一生にとつてもつとも記念すべき畫時代的のものであらうから前縣會議員桑名氏の後繼者としても精々奮鬪するやう望んでおく

奧ゆかしい影に働く人物

郡山 太田三郎氏

院長さんで通つてゐる太田氏は明治二十八年太田病院を開業して郡山つ子になり切つた「後備役は引つ込んでゐなけりや惡い」とどんな事でも表面に立たぬ人で影から一生懸命にお膳立てをしてやる人である自分が監査役である東部電爭議にも「從業員も苦しからう」と政戰で東奔西走の時間を割いて强硬な會社の主張を柔げて調停案を作り上げ兩者が調印しさうになると「忙しいから」と市長に賴んで引込んでしまつた、大正元年郡山に居つき親分はだで男を賣つてゐる岩路君を向ふに廻し何かと鼻突き合せ張り合つてゐるがこの角力は一番甘く投げたのも氏が常に眞面目に影になつて働く賜である

人格者として定評がある

伊達 佐藤源吉氏

川俣町長として三十餘年間終始した、その間幾回とはなしに不渦に沈んだ同地の機業界の回復のため骨を折つて來た氏は常に默々として多くを語らず全く實行の人であり、人格者として既に定評がある。由來清節を持して伊達政友派のためには少からず盡力して來た縣會議員としては今回が始めてであるが彼の政治的手腕は永い町長生活できたはられてゐるところだ政友派の策士として大をなすのも遠いことではあるまい。

常に勇敢の士

石城 野崎滿藏氏

黨人としての君は常に勇敢でありちよ突である石城民政派の重鎭で黨政の伸張と同志の結束に努めてゐる、平町會議員として忌憚なく所見を發表して町當局に肉薄するあたりは君ならでは出來ないとこだ例の大瀧發電所問題の中心人物として知られてゐるだけ敵もあれば味方もある、手腕の發輝はむしろ今後にあらう。

苦節清節卅年

石城 若松美三氏

石城民政派の長老、地方自治のために盡すこと三十年の久しきにおよぶ、往年白井氏一派が擧つて反對黨の政友派に入黨した時、田子英吉、志賀伊之松木田織江諸氏と共に殘壘を支持して遂に今日の勢力をばん回した「苦節、清節三十年の若松美三を援けよ」うんぬんの縣議戰のポスターはたれが見ても感慨無量であつた、今回の當選はその苦節のむくいられたものといつてよい。

消防組頭から一躍縣議に

相馬 太田秋之助氏

石神村消防組頭から一躍縣會議員に當選した太田君は永いこと相馬政友部會のために力を致した人である井田川浦の干拓事業に成功し同地方では土木請負業者として知られてゐるも政治的にはあまり知られてはゐなかつた然し君は意志の人であるうそをいはない方だ、今回の出馬に際しても名議長としてその名を賣つた鈴木重郎治氏の後援がもつともあづかつて力あつたと聞いてゐるが政治的に未知數な君の今後の努力を郷黨の人々は期待してゐる。

溫健着實な

石城 鷺清昇氏

君は石城郡植田町南部民政派の新進人物でスター議員古川氏を向ふに廻し社會的に活躍して居る溫健着實の氏である現在植田町消防組頭の職にあつて手腕を見せて居るが氏の本當の活躍舞臺はこれからである。

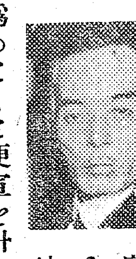
地方的信望家

伊達 管野喜三郎氏

君は常に良く地方民と親み小坂村の助役を長く奉職なし自

（五面に續く）

村を經て宮城縣に通ずるかの道路問題をも氏が全く前縣會議員としての働きである其他



福島公立病院議員としてゝ地方民の爲めとくと便宜を計り良く親切に盡し些細な事も目を届かせて働く氏は今日の榮冠を得たも決してむべなるかなた。

熱血兒大越軍三

普選最初の榮冠を見事得た縣會議員四十二名中最少年者の縣議として白河町から出馬して土地の財閥荒井氏を向ふに廻して名譽ある此の榮冠を得た、巨人東北毎日新聞社長大越軍三その人である。

氏は栃木縣芦の町の生れ早稻田に學び後ち外國語學校支那語に入りて研究し外務省情

報部朝日新聞記者となり前途を幹部から屬望されて持派員として遠く支那に遊びしが實兄松本氏死亡後止むなく歸國し現在の東北毎日新聞社を引受けて今回に到りしものなり。

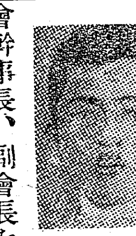
△氏魂……常に熱あり血ありて、正義の道には何物も打ち忘れて邁進する男性的固性を有し無策の所に氏の人格が物語りて民衆から敬はれ白河町の立物である。過般、白河町の電灯問題の如きは、民衆の味方となりてリーダーとして猛然立ちて突進し目的を貫徹せし如きは世人の認むる所なり。

氏三十四才の白面の一青年たるも、民政黨支部公認としてパスーした如きは重疊波乱、多き本縣政界に如何なるショツクをやがて與へるや其活躍や記者は期待して止まぬ、好漢自重あれ、

敏治にして辯舌の士

耶麻　矢部丈夫氏

氏は會中卒業の後農業に從事し其後喜方方町に出少壯に



して町會議員を振り出し民政黨の部會幹事長、副會長を努め福毎新聞社の支局長として常に吾論を以つて地方民と親しみ深く今日榮冠を得たも普選の結果賜もである。

膨張力を有する
郡山の銀行界

郡山の銀行界郡山市の金融界は古くから安田銀行、第百七銀行、舊本宮銀行、二本松銀行等三四の有力銀行の支店が開設せられ、これ等がよく金融産業の指導をされて來たのと郡山の地元銀行はいづれも其の後輩に生れ無爲にして荏苒日を淡つて來た爲に福島市と比較しては銀行のバランスも小く郡山市より小な地方の銀行よりも尚且つ見劣りするやうであるが然しながら郡山は他の市邑に比し財力も豊富であり生糸蠶物の集散米穀品の幅輳夥しくいづれも有數の老舗軒を列ねて商況活發にまた專賣局、鐵道の兩工場、電氣會社、製糸、紡績それ〴〵黑煙朦々たるを見ては銀行の發展にまで充分の機會があり地元銀行も最近着々強き力の涵養に努力してゐる傾向があるので幾萬の郡山市民と其隣接せる近郷近村の人々から絶對に安心と信頼とを得て搖るがぬ大磐石の銀行の生れんとするのも現在の郡山市の經濟狀況から見て決して至難のことではあるまいと思ふ、只一例であるが福島市の銀行は官僚主義の銀行多く商工家が銀行家に頭を抑へられ郡山市の銀行家は商工家に利用されてゐると或は財政通が語つてゐたがそれ丈郡山市の商人は卸的商業を營む大商人があることを物語つてゐると共に銀行も民衆化してよく公衆は須く銀行義務を完全に理解し之を充分に利用する活動的人々が多いことが證明され從つて銀行も發達する要素を備へてゐることが明かである。

傑出した營業方針の
株式會社 須賀川銀行
頗る堅實に發展する

株式會社須賀川銀行は須賀川町に本店を有し同地方に於ける金融界の重鎭として絶大なる信用を博し最も古くから縣南地方經濟界の唯一の機關として地方産業の開發に稗益する處頗る大なるものあり明治三十二年三月資本金十一萬圓の株式會社として創立されたのであるが其後營業範圍年々膨脹し大正二年九月二十一萬圓に增資し更に引續き大正八年十月七十五萬圓に增資し現在の拂込高四十三萬七千五百圓にして堅實な銀行である昭和二年上半期末現在諸積立金十二萬六千五百圓に達してゐる、石川、小野新町、矢吹棚倉の四ヶ所に支店を設置し竹貫、長沼に派出所あり地方産業開發の資金を供給し金融界の爲貢献してゐる、本年上半期に於ける營業成績も極めて良好にして四萬二千七百十五圓五十錢の純益金あり四千圓を諸積立金に、一萬五千三百五十圓を配當金に、一千五百圓を賞與金にあて後期繰越金は二萬一千八百六十五圓五十錢である尚期末現在預金高百五十七萬七千三圓五十七錢諸貸付金二百九萬三千八百十九圓三十錢になつてゐる預金は前期末殘高百五十四萬三千八百二十八圓六十二錢に比し約三萬四千圓を增加してあり貸付金はその回收狀態良好にして上半期中二百五十七萬八千四百六十五圓九十八錢に對し回收高は二百五十二万四千七百八十三圓八十錢となつてゐる殊に貸付金に對して消却高一萬四千二百四十六圓二十錢を計上してゐるのは同期間中貸付金の約〇、五五%の少額ながらも他行に比して內容の充實を計るために消却してゐることは同行として特筆するに値す、同行の頭取は同町の名望家柳沼甚四郎氏でまた同地方實業界の手腕家として名聲嘖々たる大久保時太郎氏取締役として直接行務を統てゐる同氏は極めて淡白にしてそのきび〳〵した堅實なる營業ぶりは尤も顧客の信用する處で經營頗る順調に進み前途益々發展すべき勢ひを示してゐる、重役としては兩氏の外に取締役に前田藤吉氏、村上治兵兵氏、道山茂兵衛氏監査役には三激藤八氏、吉田金三郎、伊勢淺治郎氏の諸氏就任してゐる。

堅實主義の典型
株式會社 瀨谷銀行
合資より株式へ

白河實業銀行と合同の噂を傳へられてゐた合資會社瀨谷銀行は本年七月銀行法案の實施を見越して資本金十萬圓を壹百萬圓（拂込高二十五萬圓）の株式會社に增資變更した同銀行は明治三十二年四月の創立にして瀨谷伊三郎氏が業務擔當社員として主宰してゐたが今回組識變更と共に氏は頭取に專務取締役には瀨谷善藏氏が就任した由來同行の行風は極端なる堅實主議で上半期諸積立金十二萬五千圓を擁し毎期の利益配當も一割の好成績を續けてゐたが今期丈は七分五厘に制限し預金額は八十萬圓餘貸出し金は七十萬圓餘で貸出回收の狀況も頗る好成績である嘗て北陸の一隅第十二銀行の常任監查役であつた馬瀨清三郎氏が月給三圓の行員から四十四年間の銀行生活の體驗談として三期に分ち第一の事務員時代としての二十五年間は先輩の指導に依つて善良なる行風に同化することを努めた。

はがき集

福ビルに申上候

◇四層の高樓福ビルが落成してから吾福島市に美觀を添えたことと人氣の吸集された事である晝も夜もドシ〳〵と押しかくる幾千のあの人數に見ても大したものだと感心させられる。

◇然し此ごろ此集ひ來る人々の大衆からホク〳〵顏を並べて居る第一階の福ビル商店が互により一入の賣り上げを算盤に上げんとの心願から所謂店頭裝飾を妙な方向に差し向けて其の店舖を妙な風態に飾り立て、切角の体裁よい建築美が無暗矢鱈に軒先から吊り下る商品などで第一其洞觀を破壞され更に他店の店頭の透視をも阻まもることは御互に商賣德義の上から愼むべきことで現在ではまだかゝる情態にはなつては居ないが目下の熱烈な氣込みから察して早晩ソンナ風になつてはと相當注意し合ふことも必要だと思ふ。

◇聽けば福ビル何々會とかも組織されたさいふから月一回位ば茶話會でも開いて店頭裝飾の研究でもしたり同時に店前處理の方法についても親しく協議して尚一層美觀と人氣吸集に努めてほしい。

（福ビル雀）

タイムス片々

◇

殆んど互角に近き票數を收めながら、當選率に於て二五對一七の大差を以つて敗れた政友派はまさに戰法に於て敗れたものと言はざるを得ない

◇

縣議戰敵味方共に意外とせる政友の慘敗振り目も當れず

◇

政友會の巨星、田倉、皆川岡野、井上、草野、平山の諸氏民政黨の總師格なる釘本、三田の兩氏之れらの一粒選りの闘將を失へしは、これも新有權者の自覺か。

◇

敗軍の將、兵を語らず、なぞと極り文句を言つて濟ましては居られまい。幹事長以下諸將よ、冷靜愼重に敗因を考究して後圖を策せよ。明春の總選擧も程近いぞよ。

◇

民政派が議長、副議長をとるとして役員問題で當然兩支部がにぎやか。

◇

議員を盜まれるのが民政派の弱點た今年は第二の菊地忠次郎を出さない樣。

◇

本縣銀行同盟總集會を福島市に開催、預金利率引下げと合同促進を議決財界建直しの第一歩へ。

◇

小名濱商港期成運動に町會議員擧つて出動其熱心さいあれば實現は疑ひはあるまい。

椅子の振當に一騒持上らんとする
興味ある縣會役員問題
民政八年振りで多數となる
政友少數乍ら密策を廻す

十日より開かれる臨時縣會も迫つて間もなく通常縣會も開かれんとしてゐる、政民兩派改選さる縣會新役員の爭奪に早くも策動を開始してゐる、何せ八年間の雌伏漸く酬ひられて、今度の選擧に依つて壓倒的大多數を占めた、民政黨では漸く政友會の手に依つて獨占されてゐた正副議長の椅子を奪取し更に參事會員を七名まで獨占せんとし、結束をかため椅子の割當に汲々たるものがあるが常に一部の野心家がある爲め、幹事の據り當椅子では到底滿足しさうもなく早くも一騒動持上がうんとするの形勢にある即ち議長には湊芳藏氏を推はまちがいのない所であらうが、副議長に白羽の矢をたてられた太田三郎氏が種々事情より起意がないものらしく、ために本宮町の小松茂藤治氏が財閥を背景に乘り出で亦一方會津の千葉爲吉氏を擧げやうとせまり、これに代つて同黨の變物と稱さる山田六郎氏も色氣たぷりなるが故に相當副議長椅子割當には醜態を演するではないかとも云われてゐる。

又參事會員の振り當については吾も〳〵の野心家が盛んに策動するものとみられてゐる更に政友會では一躍多數黨より少數黨に振り落されたに付き當然議長、副議長の奪取されるは止むを得ずとしても四名の參事會員ではあきらめられず政友會得意の秘策をぐめらし參事會員半數を奪取せんと、策動する處あり、臨時縣會役員選擧には一騒動はまぬかれまいと一般より、頗る注目されて居る。

東電東力の
合併交渉續く

東部東力の合併交渉は屢報の如くこのところ暫らく停頓の姿となつて合併促進論者をして甚しく失望させて居たものであつたが四日松永東力副社長は結城豐太郎氏を訪ね合併促進問題に就て種々協議するところあつた模樣である

福島商業銀行
十一月中旬開店か
樂觀される年末金融

この間最後の集會で銀行側提出の整理案を一部訂正し一般預金者の　承諾をまとめることになつた福島商業銀行各郡市預金者代表はその後各預金者の承諾を取りまとめ中だが預金者の方ではこれ以上要求してもお互に損であることを承知して同整理案を承認する向きが多いから目下の狀態では銀行側の想像通り十二月中旬には大丈夫開店出來る模樣であるしかしてこの結果縣下の年末金融界は　今月中に蠶糸業者の手に渡り政府貸付の蠶業應急救資二百四十萬圓もあり一方各銀行の金利引下げや輸出增加一般休業銀行の整理促進、一流銀行の證券投資等々と相まつて豫想ほどではなくソロ〳〵と安定するだらうと樂觀論者は言ひ出した。

金蝙界は

今月中に來る設備になつてゐるが農工銀行に接した西北部廣場六十坪は見物人の見晴らし位で何の役にも立たないので市當局では同所を更に高く增築して理想的な撞球場二室を設けんと計畫中である

沼澤湖發電計畫に反對
關係漁民が陳情

ヒメマス養殖湖として有名な大沼郡沼澤湖に最近發電所設置の計畫があるので同村民等は永年縣の補助をうけてやつて來た養殖事業に支障を來すといふので此程漁業組合長以下連名で縣に不許可方の陳情をして來たと

四階の上に
玉突場を

福ビル改築案

福島ビルヂング四階は福ビル食堂五十坪以外二百五坪は屋上庭園となつて居り南側は臨時活動寫眞會場とし申込に應じ何時でも同所で映寫會が出

伊達郡月舘を
中心の發展策
臼石道路と縣道に

伊達郡月舘を町制にしたいと云ふので月舘村長半澤常吉氏等は熱心に奮鬪してゐるが近く之が實施を見る事は火を見るよりも尙明白であるが同地方の一大死活問題とも云ふべき一事は同地に取つては多年の懸案である

月舘から
相萱を經相馬郡石橋村前田を通じ臼石に出て、原町街道に達する縣道の完成であるが相萱から臼石に通ずる道路の中間には有名なる佐須の山津見神社があり之は縣社としても相當以上の有資格社でありこれも近き將來には縣社に昇格せねばならぬ關係にあるが道路の開發さるゝと同時に新館村に於ても運動を速進するが草野から山津見神社を經て中村街道の行合道に出る道路の縣道完成と相俟つて同地方阿武隈山脈の開發から

實行されるのである
月舘としては此臼石道路の完成に依り相馬山中鄕の物產を月舘に集散すれば月舘は勿論川俣町も發展することが出來るから一時も早く縣道の開發が必要であると近く地方民は協議をなす事になつてゐると

益々發展する
磐城無盡商會
會長　小宅嘉久治氏

植田町に於ける少壯實業家にして頭腦の緻密なるは地方稀なるものを設立し無盡は貯金の父にして、生產的資金の母なりを標語とし地方金融界に貢獻せんと會員を募集し本店を植田町に支店を平町に事務取扱町を縣下樞要の十八ヶ所に置き同商會の發展に盡力いしたるの結果其の功績著るしく二月十五日現在の給付金契約は百四十六萬九千四百二十三圓此の口數二千八百三十六口と云ふ異數を見るに至りしは氏の熱烈なる努力と商會の確實が齎らしたる結果なりと因に同地方は肥料の購入養蠶の準備其他の資金に同商會を利用するが故に目下の財界不況にも拘らず金融圓滑にして善處なるところ大なるべし。

感謝

佐久間盛一

本社が「通常縣會號」を發刊するに當り改選後の新議員諸氏賛助員諸賢は多忙の時間をさき殊物質上多大の御賛助と激勵なる御援助下されし處甚大にして私は社一同を代表し深く感謝する處であります

私共はもとより將來の一層努力奮勵して創刊當初の目的に向つて精進致す考へでありますが平素の愛護者諸賢竝に愛讀者諸氏と共に今後共何分御聲援下さる樣お願ひ致します

私等一同は江湖諸公の御同情と御援助を相俟つて前途の光明を望みつつ勇敢に突進を續ける考へであります。

六縣各市財務協議會

廿四日より郡山市で奥羽六縣各市財務協議會は來る廿四五の兩日郡山市公會堂で開催される同市では出席者歡待とあつて約六百圓の協賛費を支出の筈である

郡山市銀行組合
郡山銀行
郡山橋本銀行
郡山商業銀行
安田銀行郡山支店
第百七銀行郡山支店
二本松銀行郡山支店
本宮銀行郡山支店
安達銀行組合
喜多方組合銀行
若松市銀行組合
石川町銀行組合
福島火曜會
福島金曜會
石城銀行組合
磐城銀行
平銀行
磐城實業銀行
磐越銀行
磐東銀行
四倉銀行
七十七銀行平支店
第百七銀行平支店
農工銀行平支店
磯原銀行植田支店
須賀川町銀行組合
岩瀬興業銀行
白河實業銀行支店
本宮銀行支店
二本松銀行支店
郡山橋本銀行支店
須賀川銀行
安達郡本宮町　株式會社本宮銀行　電話一番
若松市　會津電力株式會社　社長　福西伊兵衛
白河町　白棚鐵道株式會社　電話一六九
東白川郡棚倉町　久慈川水力電氣株式會社　電話二二番
石城郡植田町　植田水力電氣株式會社　社長　金成通
郡山市　東北製絲株式會社　社長　內藤傳之助　電話長三六五番　七五五番

歳入増加の一途として
水利使用規定を改正
千七百餘萬圓の大豫算對策に 四苦八苦の福島縣

明年度の福島縣豫算は道路改修費等を加へて實に一千七百萬圓と云ふ縣未曾有の大豫算に達し、是等自動車道路、小名濱商港等の繼續事業を除いても九百卅餘圓に達するだらうと見られゐるが、四日から開かれた最後の查定意義に於て伊藤知事がどう云ふ鉈を振ふかに付いては

注目される處である。

而し目下の必要實際から見て如何に削減するとしても、歳出全部を合して一千七百七十餘萬圓は下るまいと見られてゐるにも拘らず歳入は僅に水利使用料徴收規定によつて廿萬圓内外を見るのみで他に新制度なきため本年度の歳入七百五十九萬圓よりも勢々十萬圓内外の増收しか見込まれず結局一千萬圓後の不足となり殊に國庫に於て産業道路

補助が實現せざるに於ては縣の豫算編成を全然。變更せねばならない羽目になつてゐるが是れがため縣は、歳入増加の一途として唯一の財源たる河川占用使用料即ち前記の發電する爲の水利使用料規程を改正歳入増加を期せんとの計畫を立てた該案一昨年來徴收を見て來たものであるが

本年度の歳入豫算は廿萬五千五百四十四圓であるけれども今後完成すべき發電計畫を合すれば此處數年ならずして七十萬圓以上の歳入を見込まれ、縣有數の財源であるが、從來の使用料徴收規定によれば電氣會社の利益配當年一割に達するものは一理論馬力に付き一圓、一割以下八分未滿の配當は一理論馬力に付き八十錢を徴收するのを縣は此の際規程を八分以上の配當は年税一圓八分以下の配當に年税八十錢と改正し歳入減を防がうとする算談で來るべき通常縣會に提出せんとするもので、目下起草案作製中にあるが、電氣關係者よりは之れに對し當然必對があるべく各方面から成行は注目されてゐる、而し縣は遞信省が一圓以下の年税徴收を許してゐるのを楯にしてあくまで斷行の一途らしく見られる。

朝鮮産地
續落

朝鮮産地は出廻り増加より愈々賣物が増加して來た爲め四五十錢方の續落を演じた年内物は龜尾三等廿八圓元山三等廿七圓現物は龜尾三等廿八圓五十錢仁川三等廿八圓群山三等廿八圓卅錢角千三三等廿七圓七十錢を唱へ東京への賣物は益々増加して來た。

昭和四年度よりの△△△△
地租委讓實施漸く困難
◆……財政上及び法制上の見地より

現内閣政綱の重要案件の一である地租委讓に關しては他の重要政策を排除しても之れを實現せざれば内閣の威信にもかゝはることゝて閣僚並に政友會の意見も一致し政府に於ても昭和四年度より實現せんと目下其の立案を急ぎ次の議會に之れを伴ふ法律案提出せんと意氣込んでゐるが最近に及んで一大難關に遭遇した即ち一つは財政上の見地より他は法制上の關係よりして明年度より地租委讓を行ふ事が益々困難なる事を發見した財政上の見地より見るに地租の委讓は昭和四年度より實施する假定の下に明年度の豫算編成を行つたが財源の關係上、繼續事業の繰延べ繰上等の按配によつて何うしても昭和五年度以降の歳計を調節せざれば其の委讓の總額六千七百萬圓を捻出する事は困難なる事情にある即ち大藏當局の見地では府、縣、市町村に對する種々の補助金、交付金或は國庫負擔金等を減額することなくして地位の金額委讓を行はんとすれば、明年度より之れを實施することは困難であると云ひ又法制上の立場より見るときは何分地租委讓に伴ひ法律並に勅令案の改廢は百三十有餘に及び之れが作成を爲して今期議會に提案するも全部が通過することは多大の懸隔あるのみならず委讓に伴ふ法律並に勅令の實施上の手續きが果して昭和四年度から地租委讓を實行する間に合ふか何うかは頗る疑念の存する處でこの兩者の見地からして目下の處一ヶ年延期さるべしとの議論が頗る濃厚となつてきた。（完）

委員制度を設け
合同目的を促進
預金利率の引下げも決定 福島縣銀行總會

福島縣の銀行同盟を促進せしむる意味から期待されてゐた處の縣銀行同盟總集會に既報の如く六日午前十時から福島市公會堂に於て開催、出席銀行百三十五行、新木福島日銀調査役及び縣側から里見事務官以下列席し第百七銀行頭取吉野周太郎氏座長席に就き昨年の議事報告あつて直に議事に入り第一號案次回開催地は平町に於て開くことに滿場一致決定第二號案の幹事改選に就ては第百七銀行留任と決定し預金協定委員改選に就いては選擧の結果、福島縣農工銀行、安田銀行福島支店、二本松銀行、會津銀行、磐城銀行、白河商業銀行と決し終つて三十年勤續者表彰に移り百七銀行支配人高橋恒太郎以下二十七名を表彰して正午休憩し午後二時再會預金利率引下げの件に就ては平城銀行木村清治氏外九名の委員會に附し協議の結果

定期預金利率　二厘引下げ
其の他（日歩）　一厘引下げ

と確定しいよ／＼問題の銀行同盟を附し、縣並に幹事側よりの注文によつて合同促進委員を擧げることになり委員としては、二本松銀行、郡山銀行、會津銀行、白河商業銀行、平銀行五行の外幹事銀行たる第百七銀行を加へて是れが促進を圖り尚ほ小林福島商業會議所會頭、白井農工銀行頭取は隨時委員會に出席して意見を述ぶることと決定午後五時散會した。（五日投）

諒闇明で激増する
年賀郵便の對策
各郵便局が苦勞の種

沈み切つた街どことなく暮れ氣分がたゞよいはじめて早くも年賀郵便の話しが人の口に上りはじめた今年は諒闇中でおほかに遠慮したゝめどこも年賀郵便は少く福島局などでも前年は總取扱ひ數が三百四十六万千四百七十二通もあつたのに今年は百三萬二千通しかなつたが來年は諒闇もあけるので、今年一年諒闇で遠慮した分と不景氣の景氣づけと衆議院議員の總選擧を扣へてゐるかた／＼どこも非常にふえると見られてゐる福島郵便局では昨年の取扱ひ數を土台にしてそれより約二割増加し四百萬通に達すると見込み特別扱ひ期間中は福高商生、福中生、福師生、福商生を加勢に頼むべく今から準備してゐる。

會津盆地交通の司
耶麻軌道部
温泉と名勝の紹介に努め軌條を改め旅客を優遇す

日本硫黄株式會社經營の耶麻軌道部は大正二年創立以來今日迄連續的に約二十五万圓の巨資を投じ會津盆地に点在する河尻、横向、中の澤、川上、野地等各温泉の開發と其唯一の交通機關に任ずると共に磐梯山を中心に展在する湖水高原、傳說の紹介宣傳に努め冬は全國屈指のスキー場を控へて四季を通じて夥しい旅人の送迎に常に親切な案内役を掌つて來たが最近沿線の名勝温泉が廣く宣傳されると共に旅客の數も年毎に増加する狀態に適應すべく豫て會社當局は軌條の改良を思ひ立ち從來の十八ポンドから一躍四十五ポンドのレールを交換敷設することになり既に沼尻、樋口間五哩は五萬圓の工費を投じ之が完成を見てゐるも更に樋口、川桁間の未完成五哩に對しても前記同樣改良をなすべく工費六萬圓を計上し目下レールの購入に付き鐵道省と折衝を重ねてゐるとのことである此第二期改良工事は遲くも九月末日迄に完了の豫定にあり斯くて全線十哩の軌條交換敷設完成の曉は從來に比し輸送時間が半減され始發川桁から終点沼尻まで十哩を一時間四十分を要したのが約五十分で走行し得られると共に車體の震動が減じて乘心地よく冬季間と雖も何等の心配なく運轉され一年五萬人を呑吐する保養遊覽の旅客に對する非常な優遇となる譯である同軌道部は主任桑原虎三郎氏外全線に配屬する百餘名の從業員諸氏に依つて親切をモットウに整然たる活動を續けられてゐる。

御存知ですか？
何んでも間に合ふ

和洋帳簿類なら細大洩らさず何んでも間に合ひ、附屬印刷物も出來合せ何でもあります………。

別誂の帳簿と印刷ものは

【よろしい】と云われる迄精巧に！
【早かつた】と云われる迄迅速に！
【滿足滿足】と云われる迄親切に！

そうして『うんと』驚くべき『安價』に！
御用の時は（電話二一五九番）へ！

福島市大町
木村印刷所

逐年隆昌に赴いてゐる
株式會社 岩瀬興業銀行
縣南事業界の心臓にして新行舍は須賀川町の偉觀

須賀川町に足をいれるもの町の中央において巍然として群を拔く宏壯なる洋舘を見るであらう、これ即ち岩瀬平原に於ける米穀、蠶物、石材、林産等の資金を供給しその開發に貢献し來つた株式會社岩瀬興業銀行である、同行は縣南地方に於ける金融界の重鎭として斯界に活躍してゐる素封家小橋小太郎氏を頭取に戴き專務には本縣事業界の花形として名望高き熊田榮作氏を、その他重役は同地方の資産家揃ひである、同行は元須賀川信託株式會社を大正九年十月資本金一百萬圓（拂込四十萬圓）の銀行に變更したもので創立日尚淺いが毎期優良の成績を擧げ大正十二年には現在の行舍を新築し營業狀態は日毎に隆盛に赴いてゐる。

本年上半期末現在に於けるコルレスポンデンス先は本店に於て百七十五、石川支店に於て九十九に達し、長沼、白河仁井田、牧本、淺川に派出所を設け壹百六萬五千七百十八圓四十四錢の預金を有してゐる、斯の如く創立日淺きに拘らず預金の多きは同行主腦者の信用厚きと共に銀行經營その宜しきを得たる爲めであるしかして貸付金並びにその回收狀態を見るに之亦頗る良好なるものがある、即ち上期貸出高百十六万八千九百十六圓十三錢に對し同期返濟高百十七萬三千六百九十八圓四錢にして財界混乱を極めた本年上期の成績に於いてかくの如き業蹟を擧げてゐることは經營者の快手腕を如實に物語るものである。

同行の當期純益金は四萬七千九十圓七十八錢にして內法定準備金は五千圓、別途積立金參千圓建物消却積立金二千圓退職給與基金壹千圓重役賞與金二千圓株主配當金は年七分の割合にて二萬株に對する上期配當金は壹万四千圓、後期繰越金貳萬九十圓七十八錢である。

栃木縣金融界の曉將
株式會社 矢板銀行
同白河支店の發展振り

栃木縣財界の中心として同縣斯界を風靡し大飛躍をなしつゝある株式會社矢板銀行は矢板町に本店を有し、創立明治三十二年一月にて資本金一百五十萬圓（拂込七十五萬圓）現在の諸積立金二十四万七百六十七圓を有し基礎の最も鞏固なる銀行である、頭取は同縣財界の巨頭矢板寛氏でその他の重役はいづれも同縣下の多額納稅者揃ひである。營業所は矢板町に本店あり、支店は縣下樞要の地即ち矢板町扇町、黑磯、黑田原、伊王野、白澤、玉生、泉、西那須野、各地に設けて同縣經濟界のために寶献しつゝある、而してその餘勢は本縣にも手を展ばし大正十一年九月上旬白河町に支店を設置し同行に永らく副支配人として勤務してゐた本間勇氏を拔擢し同支店に據えたのであるが氏は性極めて温和、且つ頗る熱心にして顧客に接するに懇切なるため好評を以て迎いられ內容の堅實なる大銀行の支店として絶大の信用を博し、銀行の多い白河町において預金四十九萬餘圓、貸出し三十一萬圓餘の好成績を擧げてゐる。一面からこの成績を批判すれば同行は資金運用上白河町から預金吸收に努めてゐることが判然するが、然し反面からこれを考察すれば同行の信用の絶大なることを物語るもので本縣と栃木縣の經濟關係を密接ならしめるに大なる力あるもので本縣金融界のため實に喜ばしきことである。

本年上半期同行の營業成績は預金二百四十八萬九千二百七十一圓二錢にして貸出しは三百十三萬三千百九十二圓九十八錢である、而して同期の決算に於て五萬五千六百八十一圓七十錢の純益金を擧げ基礎の磐石なる銀行として知られてゐる。

福島市万世町　內科 梅毒科 ×光線科　福田醫院　電話四六〇番

福島市宮町　眼科 內科 小兒科　神岡醫院　電話三三八番

福島市萬世町　內科 小兒科 婦人科　柴橋醫院　電話五三一番

福島市北町　產婦人科 內科　明治病院　院長 幡英二

福島市中町　皮膚科 梅毒科 泌尿外科　三澤醫院　院長 三澤三郎

郡山市　內科 外科 產婦人科　壽泉堂病院　院長 湯淺爲之進

郡山市　梅毒 麻病 皮膚病　斗星堂病院　（入院隨時）電話二七三番

福島市北町　產婦人科 內科　照內醫院　電話三五七番

內臟外科 耳鼻咽喉外科專門　醫學博士 大原八郎

內科小兒科專門　醫學博士 岩永幾太郎

福島市　大原病院　院長 大原一

【入院隨時】電話 二〇六番 九二五番 七一九番

◆入院隨時◆　內科 小兒科 皮膚科 性病科 產婦人科 耳鼻咽喉科 外科　郡山市　太田病院　院長 太田三郎　電話 八番 五五番

◆入院隨時◆　內科 產婦人科 小兒科 眼科 皮膚科 泌尿科 耳鼻咽喉科 外科　院長 醫學博士 菅沼清次郎　公立福島病院　福島市杉妻町　電話 一六六番 五三八番 八七六番

◆入院隨時◆　公立岩瀬病院　院長 醫學博士 石田信司

貴社の個人及公衆衞生思想を鼓吹せらるる主旨に共鳴す

祝通常縣會號
（順序不同）

小杉善助
大森吉彌
桑名兵吉
田倉孝雄
白井博之
小針啓太郎
今野善次
大久保時太郎
本間忠
武藤茂平
阿部林之助
齋藤義一
鈴木英亮
吉野周太郎